

APU のグローバル人材



立命館アジア太平洋大学
就職部長、言語教育センター教授（中国語）
杉田欣二

ちようかんず
APU の鳥瞰図 “天空のキャンパス”

天空のキャンパス APU

まずは立命館アジア太平洋大学（Ritsumeikan Asia Pacific University 以下 APU の略称を使用）についてご紹介したい。APU は日本在外企業協会に賛助会員として名を連ねる唯一の大学であり、会員企業のなかにも学生を採用いただいているところは少なくない。日ごろのご協力とご支援に感謝申し上げたい。

APU は 1900 年の京都の立命館創立百周年とミレニアム（新千年紀）を記念し、大分県と別府市の絶大なる協力を得て 2000 年 4 月に開校した。別府市街と別府湾を見下ろし晴れた日には大分市や遠く四国までかすかに眺望できる標高約 330m の山の上につくられた APU は、まさに“天空のキャンパス”と呼ぶにふさわしいが、陸の孤島の立地ゆえにかえって絶好の学びの場となっている。

APU の 3 つの 50

開学当初 APU は「3 つの 50」という目標を掲げたが、それは、①留学生比率が 50% 以上、②留学生の出身が 50 カ国・地域以上、③外国籍教員の比率が 50% 以上というものであった。

開学から 15 年目を迎えた現在、APU には学部、大学院を合わせて 2500 人の留学生と 3245 人の

日本人学生、合計 5745 人が学んでいる（14 年 5 月 1 日現在）。彼ら留学生が全学生に占める比率は 44% と①番目の目標の 50% に近づいている。ちなみに、都道府県別の人口当たり留学生数で見ると、APU の貢献により大分県が 5 年連続で全国 1 位となっている（県内留学生の 8 割は APU 学生）。

今や留学生の出身国・地域は 79 を数え、学内はさながら“スモール・ワールド”あるいは“ミニ国連”といった様相を呈している。開学当初の②番目の目標 50 を軽くクリアし、次の指標を 100 カ国・地域に定めようとしているところだ。

③番目の目標すなわち教員の国籍比率については、現在、日本国籍教員と外国籍教員（23 カ国・地域）がちょうど同数すなわち 50 : 50 となって



ダイバーシティあふれる 2014 年春の入学式